

身近なようで知られていない 江戸川の魅力

行楽の秋、遠くに出かけるのもいいけれど、身近な江戸川に出かけてみるのはいかがでしょう。江戸川には豊かに広がる水辺空間があります。市ではこの空間を活用し、憩いやレクリエーションの場として整備をしています

☎712-8632 広報広聴課

写真を撮る スカイツリー、富士山や草花など被写体が豊富

若いときから写真を撮っていて、江戸川にはよく行きます。特に早朝や夕焼け、変わった形の雲が出た時などは、いつも新しい出会いがあります。あまりにも夕焼けが美しいときは、散歩している人やランナーも立ち止まりスマートフォンで撮影してしまうくらいです。本格的に写真を撮る人も、気軽に撮る人も満足できますよ。11月前後はダイヤモンド富士が見えるので楽しみです。

市川市写真協会 IPPSクラブ 佐々木 健さん



佐々木健さんが江戸川沿いで撮影した写真



史跡を知る 市川関所跡

小岩へ行き来する乗船場があったため、江戸時代初期にこの関所が設けられました。「出女と入鉄砲」が厳しく取り締まれたという記録が残っています。



自然を楽しむ 江戸川で秋の自然を楽しんでください

これからの季節は、バードウォッチングがおすすめです。里見公園下の江戸川河川敷には最近市内でも見かけなくなったキジが生息し、オオタカなどの猛禽類、モズやホオジロ、さらにベニマシコなどの珍しい野鳥も飛来します。東京湾に近いところにはサギが多く、春秋の渡りの季節にはシギやチドリ、冬にはカモを見ることが出来ます。親子で訪れるなら、河川敷の草むらを見てください。バッタやカマキリなどの虫たちが隠れていますよ。

実は貴重な生き物がいます。

江戸川は、かつての汚れた川のイメージからはすっかり変わりました。春にはアユが遡上し、コイやフナ、ウナギなども暮らしています。海の近くでは最北限に生息すると言われているトビハゼ、河川敷の一部には県内でも珍しいフジバカマ、ヨシ原の一部には市川市天然記念物のヒノマイトノボが生きています。これらは市と国や県、市民、研究者などが力を合わせて守ってきたものです。

自然博物館 金子 謙一学芸員



体を動かす 気持ち良いサイクリングやウォーキング

江戸川堤防部を走るサイクリングロード。富士山やスカイツリーを望むことができ、休憩施設、案内板なども設置しています。



ハゼを釣る 秋の陽気にボートを浮かべて

波が小さく安全な江戸川放水路でのハゼ釣りは、家族連れにぴったりです。初めてでも簡単に釣れます。秋には、サイズも大きくなり、釣れたときの感触をより楽しめます。釣った後は、10センチメートルより大きいものは開いて天ぷらに、小さいものは放流するから揚げに、数が釣れない場合は野菜と一緒に揚げにするのがおすすめです。さらに骨は素揚げにして、「骨クッキー」にするとカルシウム豊富なおやつ、おつまみになります。



- 鈴木さんからのアドバイス
1) 場所を変えて釣る。ボートを借りるといいでしょう。
2) ボートを借りるとき、釣れる場所を聞く。
3) 天気予報をチェック。またインターネットで潮見表を確認する。満潮干潮前後の1時間は釣れにくいです。

ハゼ釣りの書籍を多数出版している鈴木 和明さん

歴史を知る 川に沿う街行徳

私が小さい頃、江戸川はとても身近な存在でした。土手が広がり、棧橋で衣類や食器を洗っていたものです。また新川、小名木川などを経由し、船で日本橋まで行くこともできました。川が整備されたのは、江戸時代に行徳で作られた堤を江戸城に運ぶためです。やがて成田山への参拝が盛んになり、1800年頃には、旅人が行き来し、常夜灯が建てられた新河岸現在の常夜灯公園のあたりを中心に大変にぎわっていたと言われています。昔から、人々の生活に添う江戸川、この魅力の子もたちに伝えていきます。



江戸名所図会 行徳船場

江戸川を知る 60年もの間、私たちを守ってくれる

昭和32年に竣工した行徳可動堰。当時は東洋一のローリングゲートを有する可動堰でした。その役割は2つあり、1つはゲートを閉じることで海水が逆流することを防ぐ機能、もう1つは洪水時などにゲートを開けることで、水を安全に海に流す機能です。江戸川水門とともに、日々活躍しています。



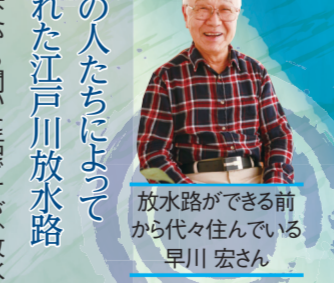
工事にあたり、家などを動かしたのですが放水路の場所にあつたと思われ春日神社が行徳の胡録神社の敷地にあるのは、その証です。
「工事にあたり、家などを動かしたのですが放水路の場所にあつたと思われ春日神社が行徳の胡録神社の敷地にあるのは、その証です。」
「工事にあたり、家などを動かしたのですが放水路の場所にあつたと思われ春日神社が行徳の胡録神社の敷地にあるのは、その証です。」



放水路工事の様子 (国土交通省 江戸川河川事務所提供)

歴史を知る 地元の人たちによって造られた江戸川放水路

曾祖父から聞いた話ですが、放水路ができる前は田畑が広がっていました。八幡と行徳は地続きで、我が家は現在の行徳橋の上流にあつたそうです。水害を何度か被り、風呂桶が約3キロメートル先の本八幡付近まで流されたこともあつたとか。
「曾祖父から聞いた話ですが、放水路ができる前は田畑が広がっていました。八幡と行徳は地続きで、我が家は現在の行徳橋の上流にあつたそうです。水害を何度か被り、風呂桶が約3キロメートル先の本八幡付近まで流されたこともあつたとか。」



放水路ができる前から代々住んでいる早川 宏さん

江戸川を知る これからの江戸川

多くの歴史を積み重ね、今がある江戸川。今年、常夜灯公園にあずまやが新設されます。平成31年には妙典橋の開通、平成32年に行徳橋架け替えが予定されています。
「多くの歴史を積み重ね、今がある江戸川。今年、常夜灯公園にあずまやが新設されます。平成31年には妙典橋の開通、平成32年に行徳橋架け替えが予定されています。」



▲建設中の仮称妙典橋